

至誠館大学

科目名	子どもの歴史と教育			コード			
英語表記							
担当教員名	山口季音			年度	平成28年度		
基準年次	2	開講期	後期	単位数	2		
授業形態	講義	授業形式		履修形態	選択		
<p>本授業では、近世から現代にかけての子どもの歴史と教育について学ぶ。また、子どもの教育に関する歴史とともに、「子どものイメージ」の変遷について理解を深めることを目的とする。子どものイメージは文化や時代によって変化するものであり、そのような「子ども観」を学ぶことを通して、子どもと社会との関係を深く理解できるようになることを目指す。</p>							
到達目標							
①近世から戦前までにおける子どもの教育に関する基礎知識を獲得する。②戦後日本の子どもの教育のありようを知る。③現代における子どもの教育についての課題を理解する。							
授業計画							
第1回	オリエンテーション ―子どもとは何か―						
第2回	近世における子どもの教育						
第3回	前近代社会と教育						
第4回	近代学校の成立と子ども						
第5回	学歴エリートの誕生						
第6回	新中間層の子どもと教育戦略						
第7回	農山村の子ども						
第8回	都市スラムの子ども						
第9回	少国民としての子ども						
第10回	小括 戦前までの子どもの教育						
第11回	戦後日本における子どもの教育						
第12回	学校から労働市場への移行						
第13回	子どもの教育問題とその変遷						
第14回	グローバリゼーションと教育						
第15回	まとめ						
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
授業態度、授業内課題およびレポートで評価する。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
				30	50		20
授業外学習			テキスト、教材				
配布資料や講義の内容を復習することが望ましい。			なし。適宜資料を配布する。				
参考書			受講生へのメッセージ				
小針誠『教育と子どもの社会史』梓出版社、2007 酒井朗ほか『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012			子どもを客観的な視点で捉えるための知識を養う授業です。自分の「子ども観」を自覚し、時に問い直せるようになってください。				
キーワード							
子ども・歴史・戦前・戦後							